漢文文法論と
サブテキストの提案

薄井俊二（埼玉大学名誉教授）
鹿島脩太（千葉大学大学院）

全国漢文教育学会　第39回大会
於　北海道教育大学旭川校
2024.7.13

漢　文

中国の書き言葉

中国古典文語文

古　文

日本古典文語文

漢文と漢文訓読

	中国語	翻訳←	日本語
古典文語文	漢文	訓読	古文
現代文	現代中国語	直読	現代文（日本語）

（1）藤堂明保の「5つの基本構造」説

・主述：主語と述語
・修飾：修飾語と被修飾語
・並列：対等に並ぶ
・補足：動作や行為を示し、その後その及ぶ事物を補う
・認定：可否などの認定を表し、その後その内容を表す

藤堂明保『漢語と日本語』秀明出版、一九六九初版、一九八九年15版

日本語の語種（語の系統・出自）

・固有……和語
（外国語が渡来する以前から存在した語、またそれらから派生した語）
・非固有
（外来の語、外国語由来の語、またそれと類似の構造を持つ語）
＊中国語由来……漢語
＊非中国語由来…洋語（外来語）

＊和語（やまとことば）→漢字の訓読み
［やま、あるく、よい、しかし、～は、です、ああ、
空（そら）、浅瀬（あさせ）］
＊漢語　→漢字の音読み
［行動（こうどう）、航空（こうくう）、返事（へんじ、和製漢語）］
＊洋語（外来語）
［シャボン（スペイン語）、ペン（英語）、
ガーゼ（ドイツ語）、オペラ（イタリア語）、ナイター（和製洋語）］

漢語……中国語由来、元中国語
↓中国語の文法を反映

・漢語熟語を作る（すべて一回使う）

国　児　下　功　降　不　来　名

幼　未　成　安　有　営　上　雨

「国営」
「幼児」
「上下」
「成功」……「功成」ではない
「有名」……「名有」ではない
「降雨」……「雨降」ではない
「不安」……「安不」ではない
「未来」

＊これらは漢文法を反映

「漢語」は日本語
だが中国語に由来する
中国語の文法を反映している
日本語の文法と違うことがある

高山 ← 開く 高い 山 ← 熟語 高山

登山 ← 開く 山に 登る ← 熟語 山登 ×

登山 ○

不正 ← 開く 正しく ない（不） ← 熟語 正不 ×

不正 ○

藤堂明保説

＊漢語熟語から

Ａ　Ｂ

一、地　震（地が―震う）：ＡがＢする。ＡはＢだの意。いわゆる主語と述語の関係。

「国営（国が営む）」

二、老　人（老いた―人）：ＡがＢを修飾する。

「速成（速く成る）」

三、土　地（土＋地）：ＡとＢとが対等に並ぶもの。

「上下（上＋下）」

四、成　功（成す―功を）：Ａの動作や行為の及ぶ事物をＢで補うもの。

「乗車（乗る―車に）」

五、不　正（…でない×正しく）：Ａが否定・可否・当否などの認定を表し、Ｂでその内容を表すもの。

「可変（…できる×変える）」

「漢辞海」漢文読解の基礎

二. 文を構成する基本的な成分
①主語S、②述語P、③目的語O

三. 文を構成する基本構造
S＝P－O
主述構造　S＝P
述語構造　P：O
存在文（有無）、現象文

四. 付加的な構造
①修飾構造
②前置詞構造
③並列構造

五. 助動詞

○基本構造

0. 例文「人 登 山」。日「人が山に登る」。

1. 主述構造（藤堂①）
「地震」→「地が震う」
＊「主」は、主語というより、「その文の主題」

例文「人 登」→「ひと のぼる」日本語と語順同じ

2. 補足構造（藤堂④）
「成功」→「功を成す」

例文「登 山」→「のぼる やまに」日本語と語順異なる

a. 行為の補足「行為動詞＋補語」
例：失望（失う＋望を）望みを失う
例：乗車（乗る＋車に）車に乗る
例：為博士（為る＋博士と）博士になる

＊訓読では、補足の語に助詞を附す（を・に・と等）

b. 現象の補足「現象動詞＋補語」
＊物事の有無や、自然に起こる現象を表現する場合

例：有徳（有り＋徳）徳がある
無実（無し＋実）実がない
例：降雨（降る＋雨）雨が降る
＊現代語の「下雨」に同じ

退潮（退(ひ)く＋潮）潮が退く

＊訓読では、主格の助詞「が」は附さない

◎文の中心は「述語」：一文の中で述語かどれであるかを押さえる

「人**登**山」「國**破**、山河**在**」「西**出**陽関、**無**故人」

○付加的な構造

3. 修飾構造（藤堂②）日本語と語順同じ
「老人」→「老いた人」
例：多人、速登高山。

4. 並列構造（藤堂③）日本語と語順同じ
「土地」→「土と地」
例（語）：問与学、相輔而行者也。
例（句、文）：有備、無憂。

○助動詞

5. 助動詞（藤堂⑤）日本語と語順異なる
「不正」→「正しくない」
＊「藤堂」Aが否定・可否・当否などの認定を表し、Bでその内容を表すもの
←
Aは助動詞で、Bが述語

例：不良（ない×良く）。
非合法（ない×合法で）。
可燃（よい×燃やして）
（可能である×燃やすことが）。
未来（未だ…ない×来て）。
当然（当然…べきだ×然る）。

＊再読文字とは

不来　こず

来ない

未来　いまだこず

未だ来ていない

漢文の一語の助動詞「未」を翻訳するのに、

日本語では二語が必要。→再読文字

漢文の一語の助動詞（未）を翻訳するのに、
日本語では二語が必要。→再読文字

将 来 これから 来ようと する

まさに こ んと す

白 日 放 歌 須 縦 酒（杜甫）

白日放歌 すべからく 酒を縦にす べし

昼間から歌いまくり、
酒を勝手に飲むのも当然である

◎「無」を「不」と同様の「否定」の意味を表す語とすることについて

＊「無」は「有」と互換

「有」事物が存在する
「無」事物が存在しない（単独で述語となる）
例：「有備、無憂」。
「動作を否定する」はたらきをするものではない

「有名」と「無名」
「有人衛星」と「無人衛星」

「無害」と「□害」
「無益」と「□益」

「□機物」と「有機物」
「□償ボランティア」と「有償ボランティア」

＊「不」は「可」と互換

「不」…ない（否定の助動詞）
「可」…べし（可能性、許可性の助動詞）

「不燃物」と「可燃物」

「不変」と「□変」

「□能」と「可能」

実践について◎

- 対象：埼玉県立A高校の1年生
- 対象クラスと生徒数：全3クラスでクラス①は25人，クラス②は24人，クラス③は23人の計72人

※なお、公欠等もあり、全てを受けられていない生徒も数名いる。

- 科目は「言語文化」で、教科書は数研出版の「言語文化」p136～143を使用し、全2時間構成である。

実践について◎

授業目的(発表者)

- 日常的に使用している熟語には漢文文法が使用されているということを理解してもらう。
- 日常の言葉に漢文文法が使用されているという視点から、ことばについて考え、理解していく基盤づくりを行う。

授業の付加情報

- 実地研究で指導頂いた先生が行なったアンケートによれば、グループワークを入れて欲しいという意見が多かった。
- 実地研究で指導をしてくださった先生からは、漢文訓読と再読文字、「不」「非」「無」について扱って欲しいという要望を受けている。

実践について

藤堂先生の漢語の構成

一. 主述の関係（地震→地が震う）

二. 修飾の関係（老人→老いた人）

三. 並列の関係（人民→人と民）

四. 補足の関係（成功→功を成す，乗車→車に乗る，有名→名が有る）

五. 認定の関係（不正→正しくない）

藤堂明保著　1969年5月10日『漢語と日本語』(株式会社秀英出版)より

薄井先生の漢語の構成

漢語（熟語）の構成

一　基本構造

一ー一　主述構造

国営 ⬇（国が営む）

一ー二　補足構造◎

登山 ⬇（山に登る）

無視 ⬇（視ること無し）

二　付加的な構造

二ー一　並列構造

山川 ⬇（山と川）

二ー二　修飾構造

白米 ⬇（白い米）

三　助動詞◎

不潔 ⬇（潔からず）

未開 ⬇（未だ開かず）

実践について（授業の流れ）

1限目

	主な学習活動
導入 （10分）	1. 「漢文」について 2. グループワーク①（熟語作成） 3. グループワーク②（熟語の意味）
展開 （37分）	1. 熟語構成について（返り点と熟語構成の関係に関する説明） 2. 返り点の復習（レ点及び一，二点） 3. 置き字の説明 4. 上中下点の説明 5. 書き下しの練習
終末 (3分)	1. 次回の内容についての説明

2限目

	主な学習活動
導入 （１０分）	1. 置き字の復習 2. 訓読の復習
展開 （３５分）	1. 「不」「非」「無」の説明 2. 再読文字の説明（熟語の構成を再度確認しながら） 3. 書き下しの練習
終末 (５分)	1. 学習内容のまとめ

1限目（グループワーク①）

熟語を作ってみよう

米　玄　不
来　無　紅　震　未
白　正　視
山　地　登

【指示】

この中の漢字を全て使って、二字の熟語を7個作ってください。

1限目（グループワーク②）

熟語の答え

二字熟語

- 地震
- 登山
- 無視
- 玄米
- 紅白
- 未来
- 不正

解答して、プリントを配った。

【指示】

熟語の下に意味を書いてみましょう。

グループワーク②後

- 「登山」の説明時に、「登山」は「山に登る」という意味だが、そうなれば「山登」ではないのか？

↓

- 「レ点」が隠れているという意見が出てきた。
- 「登山」には中国語文法が隠れていること、またその意味を捉える際に「レ点」が使えていることを確認した。

2限目(再読文字の説明)

再読文字

始めと終わりの二回読む字のこと

- 「未　読」
  「未だ読まず」
- 「将　来」
  「将に来むとす」
- 「当　然」
  「当に然るべし」

2限目（再読文字の説明）

「未読」

まだ読んでいない

「ない」はどこからきたのか？

「未」が二回使われていることを確認した。

4. 結果

①感想としては、「授業で返り点がわかった」「再読文字が難しい」「テストまでに覚える」のようなものが多かった。

②「日本語と近いと感じた」という意見や「今使っている言葉と同じところがあって驚いた」といった意見が全体で10人（7.2%）ほどあった。

③再読文字であるにもかかわらず、文頭もしくは文末のどちらかしか読まないというミスをした回答は2件ほどにとどまっていた。

4. 考察

②の意見が出ていることから、わずかではあるが身近なところに漢文文法が隠れているという視点を生徒に伝えることができたと考えられる。また、現在使用している言葉の中にある漢文文法に目を向けるきっかけとなったと言える。

③の結果より、再読文字の訓読にイメージを与え、身近な漢文文法との関係から理解することに効果があったことがわかる。

香炉峰下、新卜山居、
草堂初成、偶題東壁　　白居易

日高睡足猶慵起　　日高く睡り足りて猶ほ起くるに慵し
小閣重衾不怕寒　　小閣に衾を重ねて寒を怕れず
遺愛寺鐘欹枕聴　　遺愛寺の鐘は枕を欹てて聴き
香炉峰雪撥簾看　　香炉峰の雪は簾を撥げて看る
匡廬便是逃名地　　匡廬は便ち是れ名を逃るるの地
司馬仍為送老官　　司馬は仍ほ老を送るの官たり
心泰身寧是帰処　　心泰く身寧きは是れ帰する処
故郷何独在長安　　故郷何ぞ独り長安のみに在らんや

（『白氏文集』）

5

①香炉峰　廬山（江西省九江市の南）の北峰。形が香炉に似た形からの命名。
②卜山居　家をかまえるのにどこがよいかを占う。
③偶題　思いつくままに書きつける。
④猶　それでもまだ。
⑤慵　気が進まない。
⑥小閣　小さな家。
⑦衾　掛け布団。
⑧遺愛寺　香炉峰の北側にあった寺。
⑨欹枕　枕を傾けるようにして。
⑩撥簾　すだれをはね上げて。
⑪匡廬　廬山の別名。
⑫便是～　これこそ～である。
⑬名　俗世間の名声。
⑭司馬　本来は州の長官の補佐役だが、当時は、左遷された者が就く官職とみなされていた。
⑮仍　やはり。なんといっても。
⑯帰処　安住の地。
⑰何独在長安　どうして、ただ長安だけにあるのであろうか、いや、そうとは限らない。「何独…」で、「どうしてただ…であろうか、いや、…ではない」と反語の意を表す。

香鑪峯下新卜山居草堂初成偶題東壁五首

五架三間新草堂石堦桂柱竹編牆南簷納日冬天暖北戶迎風夏月涼灑砌飛泉纔有點拂窻斜竹不成行來春更葺東廂屋紙閤蘆簾著孟光

重題

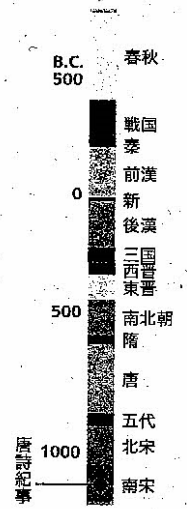
喜入山林初息影厭趨朝市久勞生早年薄有煙霞志歲晚深諳世俗情已許虎溪雲裏卧不爭龍尾道前行從茲耳界應清淨免見啾啾毀譽聲

長松樹下小谿頭斑鹿胎巾白布裘藥圃茶園爲產業野麋林鶴是交遊雲生澗戶衣裳潤嵐隱山厨火燭幽最愛一泉新引得清冷屈曲遶階流

日高睡足猶慵起小閣重衾不怕寒遺愛寺鐘欹枕聽香爐峯雪撥簾看匡廬便是逃名地司馬仍爲送老官心泰身寧是歸處故鄉可獨在長安

宦途自此心長別世事從今口不言豈止形骸同土木兼將壽夭任乾坤胷中壯氣猶須遣身外浮榮何足論還有一條遺恨事高家門館未酬恩

推敲



賈島[1]赴[キテ]挙[2]ニ至レル京[3]。騎[ノリテ]驢[4]ニ賦[シ]レ詩ヲ、得[タリ]ニ「僧ハ推[オス]❶月下ノ門」之ノ句ヲ。欲[ス]ニ改[メテ]レ推ヲ作[ナサント]❷ト敲[トセ]。引[キテ]レ手ヲ作[スモ]ニ推敲之勢[ヒヲ]、未[ダ]レ決[セ]。不[ズシテ]❖レ覚[エ]ニ衝[アタル]ニ大尹[たいいん][8]韓愈[かんゆ][9]。乃[すなはチ]＊レ具[つぶさニ]＊言[フ]。愈曰[いハク]、「敲字佳[よシト]矣。」遂[つひニ][10]並[ベテ]❸レ轡[たづなヲ]論[ズルコト]レ詩ヲ久[シクス]レ之[これヲ]。

（唐詩紀事）

1 賈島　七七九年～八四三年。中唐の詩人。字は浪仙。（↓174ページ）
2 挙　科挙（官吏登用の試験）。
3 京　都。ここでは、唐の都長安。
4 驢　ロバ。
5 賦詩　詩を作る。
問❶「推」とは、どのような意味か。
問❷「敲」とは、どのような意味か。
6 引手　手を動かす。
7 勢　かたち。しぐさ。
8 大尹　都の長官。
9 韓愈　七六八年～八二四年。中唐の詩人・文章家。字は退之。（↓192ページ）
10 遂　そのまま。
問❸「並轡」とは、どのような様子か。

❖句法

・不レ～（全）～（し）ない。［否定］

＊訓読で注意する語

乃　具

賈島赴挙
至京。
騎驢
賦詩、
得「僧推月下門」之句。
欲「改推作敲」。
引手
作推敲之勢、
未決。
不覚
衝大尹韓愈。
乃具言。
愈曰、
「敲字佳矣。」
遂並轡
論詩久之。

賈島赴挙ニ
至レ京ニ。
騎レ驢ニテ
賦レ詩ヲ、
得ニ「僧推ス月下門」之句ヲ。
欲ス[改テ推作サント]レ敲ト。
引キテ手ヲ
作スモ推敲之勢ヒヲ、
未ダ決セ。
不シテ覚エ
衝タル大尹韓愈ニ。
乃チ具ニ言フ。
愈ハ曰ク、
「敲字佳シト矣。」
遂ニ並ベテ轡ヲ
論ズルヲ詩ヲ久シクスレ之。

島と愈

上一 孟子見梁惠王

王曰

叟不遠千里而來

亦將有以利吾國乎

孟子對曰

王何必曰利

亦有仁義而已矣

王曰何以利吾國